

4月18日の神埼市長選挙で再選を果たした松本茂幸市長が4月23日に初登庁し、2期目の仕事をスタート。
松本市長にこれからの神埼市をどうつくっていくのか、その思いを聞きました。

実践、実行の4年間に

—2期目のスタートにあたり心境と決意を聞かせてください。

市民の融和、相互理解、公平公正、

均衡ある発展を念頭に市政を進めてきたつもりでしたが、選挙では半数が批判票という審判をいただきました。改めて、これまでのやり方が妥当であったのかということと考えさせられました。脊振、神埼、千代田の人がまずは心が一つになることを心がけてきたし、今もそう思っています。さらに気を引き締めて、山積している市政

の課題に取り組んでいき、2期目は、市民の福祉向上を図るため実践、実行の4年間としたいと考えています。

—合併で誕生した神埼市にとってもスタートとなった1期目、最も力を入れて来られたことは何でしたか。また、その成果はどうでしたか。

まず市民の融和、相互理解ということを考え、市民交流祭の開催や市の歌の作成を行いました。市民融和を図るには、職員の役割も大切で、

職員には、やる気と笑顔のある職場づくりを求めました。

また、神埼町時代には地域協働という呼び方をしていたのですが、引き続き市民協働にも取り組み、市民自らが考え、行動することを訴えてきました。その働きかけをするのが職員の仕事です。意識改革から行動改革に向けた研修を実施し、若手や女性職員によるプロジェクトチームができ、市民協働のまちづくりプロジェクト案を発表してくれました。さらに、財政再建も進めてきました。地方分権の中、やはりお金がなければ何もできません。返済金を少なくする努力などを行い、4年間で約24億円の経費削減を実現できました。ただ、今後は改善を図る一方で、必要なものには積極的に取り組んでいくことになっていくと思います。

—今後の4年間に取り組むべき課題についてお聞きます。

1期目にも力を入れてきた行財政改革、市民協働によるまちづくりのさらなる推進を図りたいと考えています。また、地場農産物・商工業製品の売り上げ向上による

収入と雇用の確保、市民の命と財産を守る社会資本の整備、高齢者と子どもにやさしい生活環境改善、歴史的遺産を活かしたまちづくりなどを進めていきます。これらは選挙のマニフェストにも掲げ、それぞれ4つずつの内容を示し、6×4の約束として訴えました。もちろん、これに限らず全ての問題に取り組まなければなりません。

—城原川の治水も市民の関心が高い問題ですが。

城原川の治水対策については市民の安全確保のために、690トンの流量までは安全だとする国の河川整備計画が出されたので、国はそれを守ってほしいと思います。政権が代わって、見直すと言われても、何をどう見直すのかも示されていません。安全度を下げるのは納得できないと訴えていきます。

—今後の課題に向けての方針と具体的な施策についてうかがいます。

市民の要請を大切に聞いて、行政サービスの範囲であるかどうか、すべきものか、市民に対してしっかり



2期目の初登庁で花束を手に市職員の
出迎えをうける松本市長（4月23日）

経済と心の活性化を

「地域の活性化、中心市街地の活性化についてはどう考えられますか。」

「歴史文化遺産を活かしたまちづくり」もそういう考えからですか。

説明も必要です。すべきものはその立場になって真剣にやらなければなりません。また、市民の要請については3日以内に回答する。必ずしも解決するということではなく、内容が妥当なのかどうか、大きな課題については、どう対処していくか、検討期間の必要性などを説明することです。一つひとつの課題を社会の満足のいくように進めていきたいと考えています。

行財政改革では、組織の見直し、支所の在り方も変えていかなければと思っています。福祉など民生部門は残して、建設、産業部門は一本化しなければ合理化ができません。その代わりに支所の総務課に相談窓口の担当者を置き対応することを考えています。

そして重要なのはソフトです。市民の皆さんたちに自分たちが行政の主体であるという意識、自分たちで何ができるかどこまでできるか、できない部分は市がバックアップするという市民協働の趣旨を理解していただけるようお願いしていきたいと考えています。市民会議の充実を図り、意見を聞くため夜の市長室、意見箱も続けていく考えです。もちろん、ハードについては保育園、給食センターなど懸案施設の建設があります。

また、企業誘致も必要です。現在、自主財源が34%ですが、5割程度に増やしたいものです。

「地産地消」も大切ですが、私は、「地産他消」を目指しています。神埼で生産したものをよその人に売ること、富を生みます。また、市外の人に来て消費してもらうことが活性化につながります。地場産品の直売所構想もその一環です。異論もあるようですが結果を恐れずやってみてですね。問題があれば反省し、改善する、そういう行政の在り方が必要だと思っています。

経済の活性化とともに、心の活性化も必要です。幸福感、心の満足感をいかに醸成していくかも課題です。中心市街地についても、長崎街道の宿場町だったという視点を持つて取り組むことが肝要です。

そうですね。神埼市歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画が2月にまとまりました。基本方針の第一は「郷土に誇りと愛着を持つ人を育てる」、次に「水と歴史がおりなす豊かな環境と景観を守り育てる」、3つ目に「人が行き交い活力ある地域を育てる」としています。郷土について学び、誇りを持てば、おのず

と人に紹介したくなる。そして美しい景観を守ろうという意識が育つ。さらに、多くの人が訪れ交流するようになり、活力ある地域づくりにつながります。

神埼にはすばらしい歴史と文化遺産があります。地域間競争の時代、ほかと同じやり方ではお金のある所にはかないませんが、すでにここにある歴史や文化の資源を活かすにはお金をかけずに活性化ができます。

歴史を活かした地域おこしは広域的に取り組む方がより効果的です。そういう意味からも吉野ヶ里町との合併は進めたいと思っています。お互いに新庁舎建設も課題となっており、今後とも合併を働きかけていきたいと考えています。

とにかく、この4年間、しっかりと邁進したいと思っています。



神埼市長 **松本 茂幸**
まつもと しげゆき

昭和25年神埼町生まれ。59歳。
神埼高等学校を卒業後、昭和44年に神埼町役場に入庁。
以来、35年間勤務。平成17年3月、神埼町長に就任（平成18年3月まで）。平成18年4月、初代神埼市長に就任。平成22年4月、再選を果たす。
3人の子どもは独立し、現在は、母と夫人の3人暮らし。
趣味は、園芸、庭仕事。好きな言葉は「誠意邁進」。
社会の動きに遅れないように、毎日少しでも本を読まないという気がすまないという。働きながら、東洋大学法学部（通信制）を卒業した。